普通科人文社会科学39班

演じるプレゼンテーション！？

班員　工藤 理沙　蛯原李音　　指導者　森淳子先生
　　礒端 日奈子　戸高野ノ葉　　今仁延彦先生

研究の動機

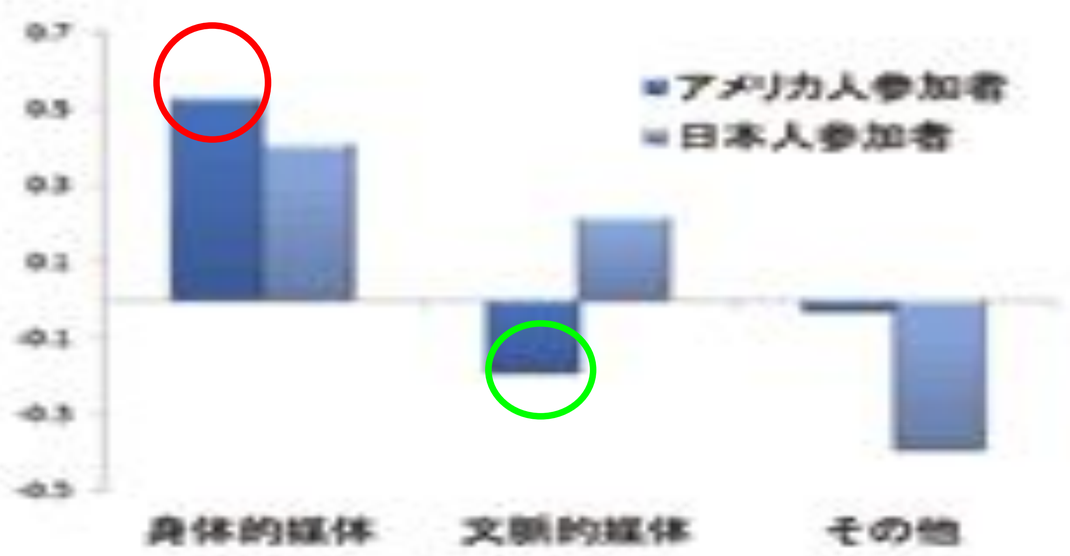
現代社会では、色々な場面で、プレゼンテーション力が物を言う。そこで、どう
zいう工夫をすれば、より効果的なプレゼンテーションができるのか知りたいと思ったから。

研究の目的

プレゼンテーションにおいて非言語的な要素に着目し明確にすることでプレゼンテーション能力を向上させたい。

先行研究

「京都大学こころの未来研究センター」
～察するコミュニケーションと表すコミュニケーション～

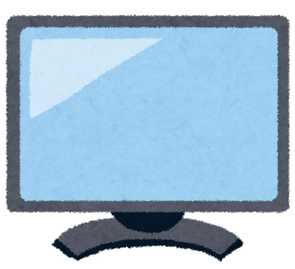


研究方法

・アンケート
・日本とアメリカのトーク番組を鑑賞し、 プレゼンテーションの要素に着目する。
・英語圏の方の話を聞き、非言語的要素の
　特徴を掴む。
・市役所の国際交流課にインタビュー

必要な道具

・PC
・テレビ
・DVD



仮説

・日本人は非言語的コミュニケーションが弱いのでは。

・非言語的コミュニケーションの能力が身についていけば、よりプレゼンテーションの能力が上がるのではないか。

＜非言語的コミュニケーション能力の要素＞
①視線（話している時の目線はどこにあるのか）
②表情（笑顔・眉の動き・喜怒哀楽・疑問の表情）
③動作（手の動き・移動・首の動き）

研究計画

4～5月	・情報収集
6～7月	アンケート調査
夏休み	アンケート結果を元に、プレゼンテーションに効果的な非言語的要素を見つける
9～10月	実践1 まとめ・反省
11～12月	実践2 まとめ・反省

参考文献

http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/jp/kokoronomirai/kokoro_vol.10_57.pdf
（～察するコミュニケーションと表すコミュニケーション～）